

ひだまり通信

第6号

令和4年5月



011-676-3131

ひだまりエッセイ

令和3年度介護報酬改定ですべての介護サービス事業者を対象にBCP（事業継続計画）策定が義務化されました。突然BCPと言われてもなんのことかわからない方もいらっしゃるかと思いますが、今回はBCPについてのご紹介させていただきます。

BCPとは感染症の発生やまん延、災害等が発生し、事業継続が困難、または中断した場合でも、できるだけ早期に事業を再開させるための計画のことです。法人の職員全員が意見を出し合って計画を立てる過程がとても大切だと考えています。

老蘇会では昨年度からBCP策定を進めております。

今後は関連事業所の方々や地域の方々と、災害等の発生時に地域で「どのような対策がとれるか」「どのような備えが必要か」などを検討できるよう、地域の中心的な役割を担えればと考えております。ご協力いただくと幸いです。

老蘇会 災害対策委員会

委員長 長田慎吾



「ボランティアさんにきいてみた」

老蘇会は、多くのボランティアさんに支えられています。「ボランティアをはじめたきっかけ」はどんなことだったのでしょうか。今回は小規模多機能型居宅介護つるかめで活動中のボランティアさんに教えていただきました。

「ボランティアを始めたきっかけ」

私が介護の事を考えるようになったのは、父が住む実家への帰省がきっかけです。二十年前に脳梗塞を患い、介護認定にならずとも明らかに人の助けがないと日常生活が送れない状態、それを世話する母の姿をみて「これは誰にでも起こりえることだ」と実感しました。

私もサラリーマン生活も残り十年を切り、退職後にどうしたいか、又世話になった両親の力になりたいという気持ちから介護職員初任者研修を受けました。驚いたのは受講生が二十〜三十代と、若い年代の方が関心を持っていることです。

そこで半年学んだことを少しでも生かしたい気持ちから、ボランティアを探していたところ老蘇会さんとのご縁がありました。コロナ禍における回数が限られた中でしたが、貴重な体験をさせて頂いたことに感謝をしています。

この経験を生かしつつ、いつかこの業界に携わっていただくと考えております。

つるかめボランティア 柴山

